

西脇市学校部活動地域移行検討会議の記録

会議等の名称	第3回西脇市学校部活動地域移行検討会議
開催日時	令和6年11月28日（木） 午後7時00分～午後8時55分
開催場所	西脇市役所大会議室（3階）
出席委員の氏名又は人数	13人
欠席委員の氏名又は人数	2人
出席職員の職・氏名又は人数	8人
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	－
傍聴人の数	6人
議題又は協議事項	○第2回会議のまとめ ○意見交換 ・基本方針（案）について
会議の記録（概要）	
発言者	
委員長	<p>《開会》</p> <p>基本方針の策定に向けての協議であるので、関係団体の調査結果も踏まえ、前向きな議論を願いたい。</p>
事務局	<p>《協議事項（1）基本方針（案）について》</p> <p>【資料1 基本方針（案）を説明】</p> <p>国において「地域移行」という名称を「地域展開」などに変更する検討が進められている。西脇市においても、定める基本方針について「地域移行」を「地域展開」に改める。</p>
委員長	<p>前回の共有事項として、まずは既存の部活動を対象に令和9年度中に休日の地域展開を図るということ。</p> <p>指導者の確保について、部活動地域展開に関する調査を行ったので、引き続き説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>【部活動地域展開意向調査結果（速報版）の説明】</p>

委員長	指導者確保、保護者の負担軽減という問題も含め、この基本方針（案）について、意見をいただきたい。
委員	「全ての中学生を対象とし、通学する中学校に関わらず自分の関心・興味に応じて」という部分は、拠点校方式というイメージか。それとも、地域クラブ設立を前提として、そこには誰でも行って活動しながら、他にも行ってよいということなのか。
委員	拠点校方式は、学校設置の部活動となる。地域クラブには該当しない。
委員長	学校部活動のように、例えばA中学校、B中学校、C中学校のうち、A中学校が中心という考え方ではない。種目によっては市に一つの種目があるし、毎日活動するクラブと、週2回程度活動のクラブに分かれることもある。志向性で分ける場合、エリアで分ける場合もある。少ないところ同士で結合する場合もある。
委員	現状では、どのぐらいの地域クラブ活動ができる見込みなのか。候補として挙げられている種目はあるか。生徒の関心、要望についての資料もあるのか。
事務局	試行的に、来年度から陸上競技と剣道に取り組みたい。
	今後、小学4・5・6年生、中学1・2年生、保護者を対象にアンケートを取ろうと考えている。
	受け入れ側・地域側のアンケートを取っているが、全ての回答が返ってきていない。条件面等についての協議も進めたい。
委員	他地域の教職員から、地域クラブ活動では、教職員が指導者の場合は、自校の生徒を指導できないというルールがあると聞いた。
事務局	休日の地域展開となると、学校管理下の活動ではない。地域クラブ活動として行う休日の活動は地域指導者が担当し、原則として教職員としての立場では指導しないということになる。
委員長	教職員の兼職兼業について、教職員が休日の指導を希望した場合には、クラブが一つになった場合には、市の全生徒を指導することになる。つまり、教職員が地域指導者として休日の地域クラブ指導に従事する場合、平日の部活動と同様のスタンスで指導できることではないということも、理解しておくべきである。

委員	<p>平日と休日の部活動のイメージがよく理解できていない。本当に条件が合えば協力可能であるという程度である。一緒に練習するなどの活動は可能だが、指導を行うというレベルには至らない。休日に、子どもたちを受け入れての指導はできない。</p>
委員長	<p>地域展開した活動を、「地域クラブ活動」としている。しかし、月2回程度の公民館レベルの活動から、指導者による指導があるクラブチームのような活動まで、多様な形態が地域クラブ活動には入ってくると捉えられる。しかし、全ての活動に有資格の指導者を配置は困難である。本業の職業に従事・勤務する中で、どのような形ならできるのかということ等、西脇市のマンパワーの活用について考えていく必要があると捉えていただきたい。みんなが困っている状況だから、できることは何だろうということ十分である。</p>
委員	<p>地域で育てることができること、教育現場で育てることができることは違うと思う。教職員は教育のプロである。そのような中で、部活動が大事だと思ってきた。特に中学校3年間は、心身共に一番大事である。</p> <p>地域が受け入れるのは、休日に楽しませるためなのか。目的は、どのようなものなのか。多様な活動形態を認めていただけても、実際の指導では何を目的とするのか。自信を持ってない以上に責任を持ってない。</p> <p>教職員方は、上達させることを目標に部活動指導に携わられている。それなのに、休日だけ地域クラブ活動に行きなさいとなると、どうなるのか。目的意識を持って学校部活動に入部してくる生徒たちへの対応はどうなのか。そこが見えないと思う。</p> <p>だから、本当にやれるのかということが、私や地域の皆さんの思いであると考えます。</p>
委員長	<p>これをクリアしないと西脇市は前には進めないのではないかと思う。多くの自治体で進んでいないところは、今まさに議論となっているところだ。</p> <p>それについては、これまで昭和から生きてきた我々に染み付いている部活動についての価値観とのせめぎ合いということだ。</p> <p>部活動に関わる教職員方にも、いろいろな思いがある。そこを理屈だけでなく、感情も含めた様々なことを、フラットにあるいは冷静に部活動の意味を考え、</p>

事務局	<p>共有されないといけない。</p> <p>部活動に情熱を注ぐ教職員も学校現場にはいる。地域展開後も、兼職兼業で参加したいと思う教職員もいる。</p> <p>しかし、一般の立場からすると、指導の資格もないし、専門性も不十分なので加われないのではないかという危惧もあり、地域の方々が参加するためのハードルが高くなってしまいうという課題が浮上している。</p> <p>これまでの概念をそのまま継承して、これまでの部活動の良さを推進することは、教職員の勤務への重い負担となり、これからの教育が成り立たなくなり、本業の教育を担う教職員不足に陥る面がある。</p> <p>スポーツ・文化活動に親しむ機会を保障し、子どもたちを含めた地域住民の誰もがその活動に親しめるように、地域の環境整備を充実させることを目指すことが大事である。</p> <p>教職員の働き方改革等の社会情勢を鑑みると、部活動の概念を変えていかないと、このエリアでは持ちこたえられない部分が生じる。保護者からは、選択肢を増やしてほしいという要望があることは事実だ。その選択肢というのは、子どもの可能性を広げるための選択肢というように考えることができるし、逆に選択肢を広げることによって、いろいろな方がその指導に加わるということも許容していくというようなこととセットで対応していくようなにもなると考える。</p>
委員	<p>私の活動には、親の送迎で、他市町からも来てくれている。やりたいスポーツがあれば、自分で探して参加できる時代だと思う。</p> <p>今の方針に関しては、やる、やらないに関わらず、クラブ活動をさせるのであれば、そういうところを作る必要がある。しかし、アンケートでは指導できないという回答が非常に多い現状で、この話を進めても、受け皿が無いのにどうするのかということだ。</p> <p>関係団体にも部活動地域移行について協力要請したが、受け入れは難しいとのこと。私の指導する団体でも、中学生を預かる時間が無い状況である。</p> <p>子ども自体の思いも大切だと思う。本当に、自由参加であれば、ほとんど入らないかもしれない。結局は、この計画自体がなくなる恐れがあると思う。</p>

委員	<p>大半の大人は部活動をやってきた。だから、保護者の不安はとても大きい。国・県の動きなどは、保護者には全く分からない。自分の子どもはどうなるのかという不安感を抱えておられる。</p> <p>どこまで保護者に伝えていけるかは問題もあるだろうが、部活動がなくなる等と決まってから伝えたと、保護者から違った意味での反感があるのではないかと懸念している。</p> <p>少年スポーツにしても、指導方針の違いから枝分かれしているのも現実である。その結果、選手がそろわず試合に出場できないことや練習場所が無くて取り合いになるという現実もある。</p> <p>本当に先が見えないと思いながら、どのようにアンケートからの課題を捉えて前に進められるのか、将来の地域を支える子どもたちの環境をどうしていけばよいのかも考えながら地域展開が進めばよいと思う。</p>
委員	<p>スポーツに関しては、指導者によって方向性が大きく違ってくる。指導方針の違いから出る課題も生じる恐れがあるだろう。受け皿が確保できない状況で、どのように前に進めばよいのかと思っている。</p>
委員	<p>美術とスポーツでは違いがある。指導者は高齢になっても指導できる。小学校6年生で、一応は卒業としているが、中学生になると学校の部活動を優先させるので続けられないということである。</p>
委員	<p>美術では地域展開をある程度は先行できると思う。</p> <p>既存の学校部活動を引継ごうとするから難航すると思う。現状で受入れ可能な団体に子どもたちが行ってみて、指導者の指導と合わなければ、また違う団体を選ぶことは、部活動と一緒にある。だから、既存の部活動というところを外せば、もう少しすっきりするのではないかと思う。部活動を続けようとするから難しくなるので、機会を保障するという方向でよい。</p>
委員	<p>教職員は、平日は部活動の指導をし、休日になると休む。その休日は、生徒たちにどうするのか。そのあたりが、私には絵が描けない。</p>
委員	<p>平日の指導者・休日の指導者、どちらが主体になるのかをハッキリさせないといけない。休日に移行することがゴールなら、平日に指導する教職員が退く必要がある。兼職兼業で休日も教職員が指導するなら別で</p>

委員	<p>ある。</p> <p>部活を続けようとするから難航すると言われたが、部活動顧問も教職員としてではなく、地域指導者として地域クラブを立ち上げると、受益者負担で活動ができると思う。勤務時間終了後に地域指導者として指導ができる。</p> <p>部活動の目的は教育である。私も部活動で人間を育てようとしてきた。だから、教育としての部活動を引き継ぐクラブ、レクリエーション的なクラブ、全国大会を目指すクラブがあってもよいと思う。しかし、至れり尽くせりで、全ての受け皿を揃えることは不可能である。もしも、指導の方向性が合わない場合は、保護者が自ら指導者を探し出し、クラブを立ち上げてよいと思う。</p> <p>ただし、平日には教職員の指導、休日には地域指導者となると、中学生はパニックを起こす。2つの指導が存在し、段階的な地域展開というのは、いかがか。むしろ、学校部活動を一斉に終了させて、受け皿が無い状態からスタートした方が、いろいろなものが生まれるのではないだろうか。</p> <p>私も何とか全員ができるようにとは思うものの、その受け皿が全部できるのかという心配はしている。</p>
委員	<p>部活動地域展開について、部活動がどうなるのかということでは、やはり教職員の兼職兼業について考える。教育界では部活動がネックとなり、人材不足が深刻である。</p> <p>部活動では、試合で勝つ喜びは大きな成果となるので、平日の練習を行い、その成果を休日に発揮するという機会を設定するなどしてチーム作りを行う。これが日本の部活動だが、この意識を変えなければいけないとすると、これが一番難しい。</p>
委員	<p>西脇市として、どう理解を得て、どう展開していくのか、どのように指導者間での合意形成を図り、どう進めていくというところが大事だと思う。</p> <p>そろそろ具体的な全体像が見えてこないといけないのではないか。アンケート結果で浮上した課題をどのようにクリアしていき、クラブ設立にも参加してもらえ手段等を積み上げていかないと、話が前進しないと思う。やる気があってもいろいろな条件があつてで</p>

委員長

きない人もいると思う。

そのようないろいろな課題や心配事をクリアしていくような取り組みが実際に行われなければ、話は前に進まない気がする。

多くのご意見をいただいた。

まず第1に、根本的にこの地域移行、地域展開をしていく必要があるというところを、共有しなければならない。

もう一つは、学校部活動が限界であるということ。これは、もう20数年以上前から言われていたことである。世の中の、全ての働き方に関して、もうこれは難しいということである。本人の熱心な意向があってもダメな時代である。そこを共有しないといけない。その上でやれることは何なのかというスタイルで、スタートを切らないといけない。もう100%今の部活動のやり方では無理である。

その際に、次の選択肢として出てくるのは、教職員方にも少し無理をしていただき平日だけでも学校部活動を維持し、明らかに時間外勤務の休日に地域移行をすることである。国としては、一気にやりたいが、混乱の恐れもあるので徐々にとということである。

この2段階を議論していて思ったことは、平日と休日を分けること自体が別の問題を生むことになることである。思い切って、発想を変えて、平日・休日を一斉に進めているのが阪神地域である。

部活動があるから、やりたいことができない状況もある。だから、普通の文化、スポーツ活動に、この機会に振り切らないと絶対に無理である。失うものもあるが、前を向いてできることをやるしかない。そのためには、ゴールを決めた方がよいと思う。できるところからと言っていると、永久にできない。できなかったら、乱暴な言い方になるが、「そのぐらいの市民力の自治体ということ。子どもたちに謝るしかない。今までは、教職員が家庭を、時間を、そして本来の業務を犠牲にしてやってきた。それをみんなで薄く分け合おうと言っていたが、担い手がいなかった。このまちはそのレベルなんだ」と、大人が頭を下げるしかない。そこまでの覚悟が必要な施策である。

地域展開により、学校教育サービスから生涯学習サ

	<p>ービスになる。だから、しなくてもよい。公民館事業にしても、市町によっては充実度が違う。だから、サービスとして市がどこまで提供するのか、そこに市民がどこまで参画して、子どもたちのために手伝えるのかという視点に立って、初めてこの議論は進む。</p> <p>教職員にも前向きに手伝っていただきたいし、多くの市民の方々の理解を得て、そして教育委員会が責任をもって、行政が責任をもって進めていくことをお願いする。そのようなことを、この方針に、どう盛り込むかは難しいし、方針を書きすぎると行政的にも動きづらくなる。今の段階では、このぐらいと思う。</p>
問合せ先	生涯学習課（内線4050）